

平成29年12月22日

各 学 校 長 様
支援教育関係者 様

大阪府支援教育研究会
会 長 高 谷 信 郎
(枚方市立長尾小学校)

冬季研修会のご案内

寒冷の候、先生方もご活躍のことと存じます。

遅くなりましたが、大阪府支援教育研修会研修部主催による冬季研修会を次の要項で実施いたします。ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

— 記 —

1. 日 時 平成30年(2018年) 1月27日(土)
午前10時～午後4時10分 (9時45分 受付開始)
午前の講座(午前10時～12時30分)
午後の講座(午後 1時40分～4時10分)
2. 場 所 たかつガーデン 大阪市天王寺区東高津町7-11
近 鉄 大阪上本町駅 北東 約 200m
地 下 鉄 谷町九丁目駅 東北東 約 500m
JR環状線 鶴 橋 駅 西 約 900m
3. 内 容 午前4講座、午後3講座を行います。定員を少人数に設定し、参加される方の意見交換や活動が積極的に行えることを期待しています。内容は別紙をご参照ください。

午前の講座(午前10時～12時30分)

- ①インクルーシブ教育理念に基づいた特別支援教育を考える — 教育実践の現状と課題 —
後上 鐵夫先生(大阪体育大学教授) 西村 敬子先生(府立佐野支援学校)
- ②「知っておきたい子どものLGBT～いろいろあってええやん～」
大阪市淀川区市民協働課
- ③「MIM 多層指導モデル」について
海津 亜希子先生(国立特別支援教育総合研究所)

④ドロップトーク（コミュニケーションアプリの紹介と体験）

HMD T株式会社

午後の講座（午後1時40分～4時10分）

⑤「怒りの感情コントロール～子どもの感情とうまく付き合うために～」

西原 弘先生（和歌山信愛女子短期大学）

⑥研究部実践報告（ゆっくりまなぶ子どもたちとの国語・算数の指導法）

坪郷 正徳 先生（大阪狭山市立第七小学校）

⑦「特別支援教育の基礎 一制度や施策動向および支援の基本一」

加藤 美朗先生（関西福祉科学大学准教授）

4. 申し込み期間 **平成29年12月22日（金）～平成30年 1月17日（水）**

ただし、各講座、会場の定員に達し次第、受付を締め切ります。
必ず事前の申し込みをお願いします。

5. 申し込み方法 申し込み方法が昨年と違います

こくちーずPROのHPから申し込みをお願いします。

「こくちーずPRO」で、検索してください。

<http://www.kokuchpro.com/>

☆ 連絡は、申し込みされたアドレスに送らせていただきますので、返信メールの受信が可能かどうか、ご確認ください。学校のPCや携帯・スマホなどから申し込まれた場合に、返信メールが届かない事例がありました。

6. 問い合わせ先 大阪府支援教育研究会 研修部担当書記 帆足光正

大阪府立大阪北視覚支援学校

FAX 06-6328-5896

または、大支援研のHPから、お問い合わせください

大阪府支援教育研究会 2017年度 冬季研修会

== 講座内容 ==

☆ それぞれの講座内容についての具体的な質問や、講師の方に相談されたい事例がありましたら、お申し込みの際にお知らせください。

☆ 申し込み締め切り後、当日の各講座の会場配置を
大支援研のwebサイトでお知らせする予定です。

午前の講座（午前10時～12時30分）

①インクルーシブ教育理念に基づいた特別支援教育を考える

— 教育実践の現状と課題 —

後上 鐵夫先生（大阪体育大学教授）

インクルーシブ教育を推進するには、何より地域の教育力向上を図る必要がある。これまで、支援学校が実施できた「センター的役割を活用した学校コンサルテーション」や「交流及び共同学習」の実践等が地域の教育力向上にどう寄与しえたのか。地域の教育力を向上させる仕組み作りの現状と課題を明確にし、その解決策を考えることで、教育委員会や地域の学校が目指すインクルーシブ教育と、通常の学級担任が取り組みやすい実際的なクラス作りや授業作りを具現化する方策を考える。

西村 敬子先生（府立佐野支援学校）

本校は「支援学校と一緒に授業づくりをしませんか。」と提案し、4市1町小中学校と「授業づくり協働研究」を行ってきた。直接相手校へ出向き授業見学をし、知的障がい支援学校の実践を活かして協働の授業づくりを続けてきた。今回は2015年度から協働してきたA小学校の研究を報告する。

A小学校支援学級の授業は大きく改善され、児童の姿にも大きな変化があった。授業改善の具体例と児童の変容、教員の手ごたえ等を報告する。

②「知っておきたい子どものLGBT～いろいろあってええやん～」

大阪市淀川区市民協働課

平成27年（2015年）に実施された約7万人を対象の民間企業が行ったインターネット調査では、対象者の約7.6%の方がLGBT当事者であるというデータが公表されています。このように実は身近な存在であるにもかかわらず、今まさに周囲の差別・偏見・無理解により悩み苦しんでいる姿があります。そのため本講座では、LGBTに関する基礎的な知識をはじめ、LGBT当事者たちが学校や職場、地域において直面している問題や課題を共有し、LGBTについて知っていただく機会とします。

※LGBTとは L=レズビアン（女性同性愛者）・G=ゲイ（男性同性愛者）・B=バイセクシャル（両性愛者）・T=トランスジェンダー（生まれた時に割り当てられた性別にとらわれない性別のあり方を持つ人）の総称です。

③「MIM 多層指導モデル」について

海津 亜希子先生（国立特別支援教育総合研究所）

MIMは、Multilayer Instruction Modelの略で、多層指導モデルという意味です。多層指導モデルMIMでは、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していきます。特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことをめざしています。子どもをつまずきを把握し、その結果をしっかりと指導・支援に生かしていきます。生きていく上で重要な「読み」に焦点をあてながら概説します。

④DropTalk（コミュニケーションアプリの紹介と体験）

木下 誠先生（HMDT株式会社）

タブレット端末でAAC（拡大代替コミュニケーション機器）やVOCAとして活用できるアプリの紹介とワークショップです。ワークショップの詳細は以下の内容となります。

機器は講師から貸し出す予定です。ご自身のタブレット機にDropTalkをインストールしてお持ちいただいても構いません。

当日のワークショップ内容（予定）

- ・導入、DropTalk概要、用語の説明
- ・コミュニケーションキャンバスの作成
- ・スケジュールキャンバスの作成
- ・スケッチキャンバスの使い方
- ・キャンバスの共有（ストアの紹介、AirDropの使い方）

午後の講座（午後1時40分～4時10分）

⑤「怒りの感情コントロール～子どもの感情とうまく付き合うために～」

西原 弘先生（和歌山信愛女子短期大学）

怒りの感情コントロールとは、怒りを上手く管理するための手法やトレーニングを指します。怒りを抑えたり、無視したりするのではなく、怒りの特性を理解し、自分の感情と上手に付き合えるようになることを目指すものです。

発達障がいのある子どもへのソーシャルスキルの指導には、子どもの認知特性に合わせた指導が求められ、また、他の子どもたちにもこれらの指導は有効です。個の指導と合わせて集団への指導を行うことで、クラスのどの子にも自分の感情に上手く付き合うコツを習得させることができ、自他の違いを知り認め合う仲間作りに発展していくことにもつながります。

この講座では、発達障がいのある子どもの特性に配慮した、通常の学級で行う「怒りの感情コントロール」授業計画の一例を示します。子どもの気持ちの動きを探り、子どもが怒りの感情とうまく付き合えるようになることを目指しましょう。

⑥研究部実践報告（ゆっくりまなぶ子どもたちとの国語・算数の指導法）

坪郷 正徳 先生（大阪狭山市立第七小学校）

教室には〈ゆっくり学ぶこどもたち〉がいます。

〈ゆっくり学ぶ子どもたち〉が学習につまづく要因を考えながら、具体的な教材や指導法を紹介します。講座では「数」「基本の計算」「ひらがなのよみ」などの指導法について紹介する予定です。

本講座の内容は、午前の講座③「MIM 多層指導モデルについて」との関連が強いです。

本講座に申し込まれる際には合わせて申し込まれることをお勧めします。

⑦「特別支援教育の基礎 ー制度や施策動向および支援の基本ー」

加藤 美朗先生（関西福祉科学大学准教授）

講師は大阪府立支援学校での教諭経験を持ち、長く進路指導担当として、関係市町村の障がい福祉課との連携もしてきました。同僚の先生方には福祉制度利用時のアドバイスや、法制度の解説などに積極的に取り組みました。また、発達障がい児童生徒への障がい特性に合わせた指導に関しても、早くから取り組み、現在の大学での講義や、自身の体験談を引用しながらの講演など、主な研究テーマとしています

今回は年度末に向かうこの時期に「特別支援教育の基礎」と題して、制度や施策動向および支援の基本について、先生方ともう一度確認をし、次年度へのステップアップとなるようなお話しをして、先生方と共有したいと思います。